

びわ湖トラスト親子環境学習講座

～megumi に乗船 B～ 報告書



認定 NPO 法人 びわ湖トラスト

実施日	2025 年 8 月 7 日 (木)
助 成	公益財団法人 平和堂財団
後 援	滋賀県教育委員会・大津市教育委員会
目 的	琵琶湖及びその周辺で、親子で環境学習を行い、直接触れることで、参加者に琵琶湖への環境について興味を持つ機会を設け、保全につなげる。
参加者	15組 30名 (大人:15名・子供:15名)
スタッフ	8名 (講師・平和堂財団・ボランティアスタッフ含む)
行程	
9:15	受付開始
9:40	乗船開始 乗船前にプランクトン採取見学
9:50	大津港 出港 (白鬚神社・沖の白石経由) オリエンテーション プランクトン講義 顕微鏡でプランクトン観察 (南湖)
11:45	ランチ (船内)
12:30	沖島 寄港 プランクトン採取・体験・島内散策
14:00	沖島 出港 プランクトン講義 顕微鏡でプランクトン観察 (北湖) スケッチ・アンケート
16:05	大津港 帰港 下船 解散



今回も前回と同じ行程にし、定員は、15組30名とした。欠席者はなく、余裕をもって受付を済ませた。

乗船前に大津港にて南湖のプランクトンを講師の一瀬先生と大学生 (ジュニアドクター1期生) で採取し、その様子を参加者、スタッフ全員で見学した。



乗船後、親子環境学習上の注意事項やトラストの紹介、スタッフの紹介の後、この環境学習の
スポンサーでもある平和堂財団 千秋様からご挨拶いただいた。

講師は、びわ湖トラスト理事でもある、滋賀県琵琶湖環境科学センター 一瀬諭先生。

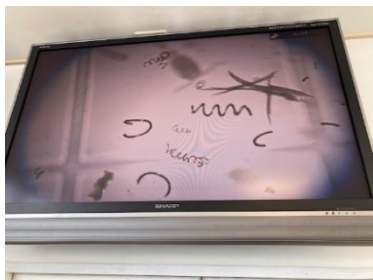
一瀬先生は、滋賀県琵琶湖環境科学センターで40年以上、琵琶湖のプランクトンについて研究
されている。



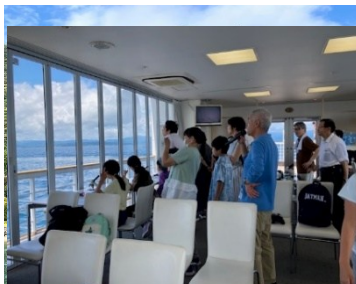
オリエンテーションの後、一瀬先生の講義が始まった。

プランクトンとは何か、琵琶湖で一番大きなミジンコは、ミジンコの生き残り作戦、ミジンコ
の耐久卵はどうして黒いのか、南湖と北湖を同じ方法で採取し、同じレベルで比べる、自由研究
についてなど色々なことを聞き、参加者は、真剣な顔でメモをとっていた。

先生の顕微鏡からモニターでプランクトンが、映し出されると、参加者親子がプランクトンの
一覧表を見ながら蛍光マーカーで囲み、プランクトンの名前を記入していく。



途中、琵琶湖大橋、白鬚神社、沖の白石に近づくにつれて講義を中断して、船からの景色を思い思い
に楽しんだ。湖から見る白鬚神社は、湖岸から見るのとは違い、鳥居の間から真っすぐに見える
神社の景色は、神々しく感じた。沖の白石では、琵琶湖汽船の中村さんから「琵琶湖の島」につ
いての話をびわ湖トラストの石の博士、淵上さんから「石」についての話を聞いた。



午前の講義を終え、船内又は、二階デッキにて個々に昼食を済ませ、沖島に上陸。
船尾にて集合写真を撮り、プランクトン採取の体験、見学して島内し、島内自由散策。



乗船前に渡した沖島の地図を持ち、神社に行く、小学校を見に行く、栈橋付近で過ごす、漁港会館でアイスクリームを食べる、よそものコロッケを食べる、つくだ煮を購入する、など思い思いに出港までの時間を親子で楽しんだ。



船に戻り、午後からの講義。下船時に採取した北湖（沖島）のプランクトンを顕微鏡観察。

分からないことがあれば、手を挙げて、先生やジュニアドクターのボランティアスタッフに聞く。最初は、消極的だったジュニアドクター5期生の彼が、ボランティアスタッフに背中を押され、参加者の質問に答えていた。参加者も同じで、どんどん手があがる。



楽しい顕微鏡観察は、あっという間に過ぎ、まとめ、アンケートへ。

南湖（大津港）では、植物プランクトン、動物プランクトン合わせて、23種類のプランクトン。
北湖（沖島）では、植物プランクトン、動物プランクトン合わせて、27種類のプランクトンに出会えた。どんな種類のプランクトンがいたのかは、参加者だけの秘密。そして、頑張った参加者全員に、プランクトンに関するグッズをプレゼント。



最後は、ジュニアドクターのボランティアスタッフが自分の研究について、今日の観察会について話した。ジュニアドクターの話を聞き、三人の成長をかんじた。一人でも多くの参加者が琵琶湖に興味をもち、ジュニアドクターにも興味をもってくれることを期待している。



5期生 堀田くん



4期生 田原くん



1期生 川井さん

